

苦勞を重ねてきたこれまで

順 風満帆にも思える浅野選手

の経歴ですが、サッカー選手として全てが順調だったわけではありませぬ。八風中学校卒業後の進路を考えたとき、当初はサッカーの強豪である四日市中央工業高校（四日市市）への進学は選択肢になく、その理由は、家庭の経済的な事情でした。6人兄弟という大家族を支えるため、長距離ドライブとしてほとんど家にいない父とさまざまな職場で働きに出ている母の姿を見て、遠征費などに多額の出費が必要な四日市中央工業高校には進学できないと浅野選手は考えていました。しかし、当時の八風中学校のサッカー部の顧問が、両親とともに浅野選手を説得し、浅野選手の才能を生かすために四日市中央工業高校へ進学するよう勧めました。その説得を受け、浅野選手は「高校3年間だ



▲四日市中央工業高校時代の浅野選手

つかんだ念願の代表入り

W 杯出場へ人一倍想いが強

かった浅野選手。自身の人生の全てを懸けて臨む強い姿勢は、4年前のW杯ロシア大会での辛い経験があったからでした。前回のW杯のアジア最終予選で2ゴールを記録するも、代表選手入りを逃した後は、バックアッププレーヤーとしてロシアへ向かい、悔しい想いをかみしめながら、この4年間を過ごしてきました。今回のW杯カタール大会の直前も右膝のじん帯を痛め、直近の試合にもなかなか出場できず代表入りが危ぶまれていました。しか



INFO 03 Everyone calls him JUGUAR 愛称は「ジャガー」

浅野選手の愛称として親しまれている「ジャガー」は、サンフレッチェ広島に所属していた頃に記者が当時のチームメイトをピューマに例え、デビュー直後の浅野選手をジャガーと表現したことが発端といわれています。その後、浅野選手がゴール後のパフォーマンスで顔の横で両手の爪を立てて口を大きく開ける「ジャガーポーズ」をするようになり、徐々に世間に知られるようになったようです。

け家族には我慢してもらい、その後、お金は自分で返していく」と心に決め、プロのサッカー選手になることが自分の「夢」から確固たる「目標」に変わった瞬間になったと後に語っています。その決意を胸に四日市中央工業高校へ進学した浅野選手は、2年生からレギュラーを獲得し、高校選手権で得点王に輝くなど一気に知名度を全国区へと広げていきます。そんな活躍をスカウトも目にして、高校卒業後はJリーグのサンフレッチェ広島へ入団します。

し、浅野選手は自身を信じてリハビリを重ね、26人の代表の枠を勝ち取りました。4年越しにつかんだ悲願の代表入りでした。

そして訪れた運命の決定機

日 本代表のW杯初戦となつたグループステージ第1戦

のドイツ戦、W杯のピッチについて浅野選手が立つときがやってきます。57分、ドイツが1点先制している試合の流れを変えるために浅野選手が投入されます。ピッチに立った直後から果敢にゴールを狙っていきます。堂安律選手が同点弾を決めた後も徐々に日本が試合の流れをつかむ中、同点の均衡した状況で83分を迎えていました。自陣右サイドでフリーキックを得た板倉滉選手。こしかなないというポイントにボールをあげられた先には浅野選手が絶好の場所に走り込んでいました。



④役場本庁に掲げた横断幕⑤町民センターには関連グッズなどを展示

そして迎えた千載一

遇のチャンス

ROAD TO WORLD CUP 浅野拓磨選手の軌跡



①子どもたちと楽しそうに競り合う浅野選手②直接の交流も子どもたちには嬉しい経験③世界で活躍する選手のプレーを間近で体感



サンフレッチェ広島入団時の監督が現在の日本代表の森保一監督でした。この頃から日本代表選手としても選出されるようになり、リーグ優勝やベストヤングプレーヤーに輝くなど順調に成績を収めていきます。そして、その次のステップとして選んだ地は、サッカーの本場、ヨーロッパでした。ヨーロッパに拠点を移してから、成績を残しつつも契約の問題で試合に出場できなかったり、給

与の未払いを理由に契約解除を選んだこともあり、浅野選手にとって厳しい状況が続いたこともありました。

今でも大切にしている地元蕪野

ヨ ーロッパに拠点を移し、選

手として厳しい状況が続く中でも、浅野選手は帰国する度に蕪野町でサッカー教室を開催するなど地元に貢献する活動を続けてきています。サッカー教室を開催すれば、町内のサッカークラブに所属する子どもたちを中心にくまなく子どもたちが集まり、蕪野町が輩出したプロサッカー選手のプレーを間近で体感できる貴重な機会となっています。浅野選手も丁寧に将来、サッカー選手を目指す子どもたちへ指導を行い、一緒にプレーすることでサッカーの楽しさを全力で伝えてきています。

BIG CHANCE

写真提供：ゲッティイメージズ

